

## 平成 29 年度 学校評価結果

学校法人 歩学園

認定こども園 歩学園幼稚園

### ■ 1 教育目標と行動指針

#### 知育 発達段階に応じたカリキュラムで「考える力」を養う

0才から5才まで、数の認識、物理的認識、言葉の認識や論理的思考能力等、長年の研究と心理学の父といわれたJ.ピアジェ博士が、数多くの子どもたちに実験して体系化した認識論をベースにした発達プログラムをカリキュラムに取り入れています。子どもたちが好奇心を持って、自発的に活動する環境が大切で、遊びながら創意工夫することによって新たな発見をして、また、次のことにチャレンジするといった好循環が「考える力」すなわち創造性や論理性を養うのです。幼稚園の発達プログラムは将来を大きく左右します。興味が湧き、今より少し困難な環境を整えることが肝要ですが、発達段階を理解していないと、あまりにも簡単なことや反対に難しすぎる課題を与えてしまい、子どもの探究心を削いでしまうのです。また、できる子、できない子、答えが正しい、間違い等という観点からではなく、一人ひとりの子どもの発想と自分で考えることを大切に、「今より一歩」を目標に、子どもの可能性を引き出す環境を整えています。

#### 徳育 色々なグループ活動で「人間力」を養う

同年齢間や異年齢間での様々なグループ活動から、「思いやり」「たくましさ」「協調性」

「奉仕の精神」を養います。子どもは子ども同士で、楽しんだり、時にはけんかしたりして、いつも自分の主張が通らないことを感じたりしながら社会性を身につけていきます。月に1度のおたのしみ会（全学年で行う縦割り保育）なかよし会（クラスの枠を取り学年ごとで行う保育）、ふれあい会（ふれあいを大切にした縦割り保育）、また、お泊まり保育や音楽劇発表会（年長児）や運動会の行事を通じて、様々なグループ活動でリーダーの経験をしたり、困った友達を助けたり、いろいろな経験を積み重ねながら喜怒哀楽を適度に経験することが大切です。また、人前ではっきり自分の考えや意見を言ったり、友達の意見をよく聞いたりする人間関係の基本を学びます。

#### 体育 体系的な体育プログラムで「体力」を養う

近年、日本全体で子どもの体力が低下して、深刻な問題となっています。一昔前では考えられなかった体育の家庭教師等も現実のものとなりつつあります。また、転んでも手がつけず顔を打つ子どもや、暑い、寒いと泣く子どもが現れたり、体の硬い子どもも増える傾向にあります。そこで、本学園では、このような傾向に歯止めをかけ、昔の子どものような体力を取り戻そうと、行事等の特別な場合を除き、保育開始前 20 分程度マラソンや柔軟体操を行い子どもたちの体力づくりを行います。幼児期は部分的な筋力を鍛えたり、過度な運動をさせるのではなく、転倒による怪我等の減少効果もあります。また、跳び箱、マット運動、鉄棒、縄跳び、サッカー、ドッジボール、プール等色々な経験をさせることも大切です。

各学年の発達に合わせ、体育がんばり表でチャレンジする喜びを感じながら、卒園時には、全員が跳び箱5段を跳べ、逆上がりができることを目標にしています。

## 食育

調理の過程を観察したり、スーパーでしか見たことのない野菜を園内の菜園で育て、収穫し食べることにより感謝の気持ちを育てます。また、今まで知らなかった野菜の成長過程を知り、いろいろな発見につなげていくことを目標にします。

### ■ 2 達成及び取り組み状況と今後の課題

子どもが興味や好奇心を抱き、自発的に環境に働きかけ、環境からの新たな刺激に対して試行錯誤しながら適応して、また環境に働きかけるといった好循環が本質的に重要な知能を伸ばす行為だと、確信を持って幼稚園教育を行ってきました。また、「今より一歩」、「やればできる」の精神で耐性を鍛えることが、生き抜く力の源だと、安易な放任主義は排除してきました。本学園の教育環境の質をさらに向上させるとともに、保育園の安全、衛生管理などの質の高いところを取り入れ、0才～5、6才の連続した教育環境を整えてまいりました。30年度も、一人ひとりが、歩学園幼稚園の職員である自覚と責任を持ち、認定こども園としての質の向上に努めていく。

### ■3 学校関係者評価

平成 29 年 2 月 22 日

《年長組》

- ・ 一番印象に残ったのは鼓笛隊で、目標に向かって皆で協力するのが力になると強く感じた。
- ・ 鼓笛隊の練習では先生に怒られる事もあったが、目標に向かって皆で頑張る姿なので納得している。それを乗り越えて本番頑張っている姿に感動した。
- ・ 鼓笛隊の練習は、初めはやる気いっぱいだったが、本番が近づけば子どもも親も不安になり家でも泣いていたが、最後まで頑張る事で達成感を感じ、やり遂げて自信がついた。
- ・ 生活展の共同製作では、クラス皆で協力し最後まで頑張ったのが伝わった。スモックの汚れは、頑張った証だと思っている。
- ・ 幼稚園での体験の中で、小学校に向けても自分の意思を伝えられる様になった。
- ・ 行事では、鼓笛隊が一番楽しみにしていた。子どもから踊りだと聞き、正直残念に思っていたが、本人が踊りが好きで一生懸命幼稚園で練習していた事が伝わり感動した。

- ・ 小学校の説明会に行った時に、「自分の名前は、読める様に書けるように」と言われたが、歩幼稚園では作文も書けるほど指導して頂き有り難いと感謝している。
- ・ 年少の時から優しい先生で、下の子どもができて悩んでいた時期も支えて下さった。子どもと一緒に成長させて頂いたと思っている。
- ・ お母さん先生をさせて頂き、子どもの成長を強く感じた。率先して色々な事を教えてくれる。子どもの姿を見て、母親としても成長できた。

#### 《年中組》

- ・ お母さん先生をさせて頂き、子どもの進め方がひとりひとり違うので、先生の大変さがわかった。
- ・ バンビから入園させていただいたが、大切な事は全部幼稚園で教えてもらっている。先生のおかげでここまで成長できた。
- ・ シングルでフルタイムで仕事をしている為、子どもとほとんどかかわれず、おもしろも多かったが、お母さん先生をして子どもがとても可愛く思えた。幼稚園に就職したいくらいだ。
- ・ 子どもに積極的な姿を見せたいと思って、お母さん先生を引き受けた。

子どものキラキラした瞳が素晴らしいと感じる。何故、大人はできないのだろうか…と思う。

子どもが食事を食べれず悩んでいるが、担任の先生が色々と工夫してかわって下さり、少しずつ食べれるようになり、感謝している。

- ・ 運動会の召集係の時に、子どもがなかなか集まらず大変だった。

先生が来て下さり、「〇〇並び」と伝えるとすぐに並んだので、事前にそれを教えて頂くといいと思う。

#### 《年少組》

- ・ 子どもが入園後しばらく泣いてしまい、とても悩んだ。

「幼稚園に行かない」と言って困ったが、きっかけがあると部屋まで行ける様になってきた。担任だけでなく、沢山の先生がかかわって下さっている。

親ではできない環境を作りあげて下さっており、感謝している。

- ・ 1学期に幼稚園に行くのを嫌がっていたが、2学期になって行事の前に担任の先生が「ビックリ大作戦」で、皆が頑張りとお母さんやお父さんを驚かせよう！！と言って下さってから、楽しんで行くようになった。

運動会・発表会は、頑張っただけ満足感を感じている様子だった。

- ・ 3人目の子どもなので、上の子どもの生活中心になっている。お母さん先生をさせて頂き、お母さん同士のつながりも持てた。

幼稚園降園後、公園で遊んでいる時に、年少の子どもが転んでいたら、年中・年長の子どもがすぐに飛んできてくれて、「大丈夫」と声をかけてくれる。お兄さん・お姉さんの優しさが伝わる。

- ・ 病気になっても、幼稚園に行きたいと言う。

クラスの女の子同士で「一緒に遊ばない」等とトラブルになった事がある。

見守っていると、その内遊ぶ様になってきた。

運動会のかけっこで、走らず歩いていたのが、残念だった。

年長組の行事での姿をみて、これからが楽しみだ。

- ・ 3月生まれでご飯が食べれず、またトイレもできない状態だったが、幼稚園に来た1年ですごく成長した。

運動会・発表会はとても楽しい一日だった。年長組の鼓笛隊を見て、これからが楽しみだ。

#### ■4 財務状況

公認会計士により、適正に運営されていると認められている。